

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつとり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ
令和3年3月15日 現在

作物名	生育状況等	今後の見通しと対策	
麦	<ul style="list-style-type: none"> ・全般的に生育は概ね平年並で、特記すべき病害虫の発生は見られていない。 ・農業試験場11月6日播種「しゅんれい」は2月中旬に茎立期を迎え、播種4か月後(3月1日)の生育調査では、葉令進展は1葉早く、茎数は平年並、草丈は低く、葉色は濃く推移している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点の出穂期予測は平年並であるが、今後の高温で早まる可能性があるため、出穂状況を確認して適期防除に努める。 ・定期的にほ場を巡回し、排水溝と明渠をつないで排水対策を継続する。 	
果樹	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・3月12日時点での生育モデルによる「二十世紀梨」の満開日は、4月8日と予想されている。 ・* 昨年満開日:4月15日、平年の満開日:4月15日。 ・* 天候の関係で4月11日が交配の中心日となった。 ・せん定作業はほぼ終了している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の気温推移によって、開花時期が変わるので注意する。 ・3月25日から発表される「強い霜に関する気象情報」に注意し、霜害対策を準備する。方法としては、散水氷結法、改良燃焼法等があるので、園の状況に合わせた対策を講じる。 ・* 発表の基準:霜注意報を発表し、最低気温が0度を下回ると予想される場合(参考)霜注意報の発表基準は、最低気温が3度以下と予想される場合
	かき	<ul style="list-style-type: none"> ・3月15日時点で発芽期になっておらず、昨年よりは生育が遅いが、概ね平年並みと推定される。(参考:河原試験地調べ)品種ごとの発芽期 ・富 有:本年未発芽、平年3月16日、前年3月13日 ・西 条:本年未発芽、平年3月16日、前年3月12日 ・輝太郎:本年未発芽、平年3月13日、前年3月8日 	<ul style="list-style-type: none"> ・展葉が始まると霜害の可能性が高まるので、注意する。 ・「強い霜に関する鳥取県気象情報」に注意し、霜害対策を準備する。方法としては、散水氷結法、改良燃焼法等があるので、園の状況に合わせた対策を講じる。
	ぶどう	<ul style="list-style-type: none"> ・例年2月末～3月上旬にハウス被覆が完了するが、本年は雪害の懸念と風が強い日が多く、産地全体としては例年より被覆時期が遅れた様子。 ・砂丘地研究センターでは無加温ハウス被覆を2月25日から開始した(前年と同じ:前年2月25日)。 ・砂丘地研究センターでの萌芽時期を比較すると、無加温「巨峰」「ピオーネ」「シャインマスカット」は前年よりも3日程度遅い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・霜害、春の突風に注意する。 ・生育が早いと発芽のばらつきが予想されるので、芽かきで発芽状況を揃える。
野菜	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 【春ねぎ】 ・例年どおり3月1日から出荷が始まっている。生育は良好で2L規格中心の出荷となっているが、一部地域では積雪の影響で出荷量が昨年の4割程度にとどまっている。 ・花穂の発育は平年並みで、抽台は4月中旬頃からの見込み。 ・排水が悪いほ場では、小菌核腐敗症の発生がやや多い。 【夏ねぎ】 ・年内定植作型は積雪の影響で生育が昨年より2週間程度遅れている。トンネル作型の生育は昨年並み。 ・3月定植作型は順調にほ場準備が進められており、例年並み。 【秋冬ねぎ】 ・出荷は終盤だが、積雪で収穫が遅れたものが残っている。その影響で出荷量も前年より2～4割少ない。 ・令和3年産の播種が3月上旬から始まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【春ねぎ】 ・早期抽台の恐れは少ないが、気温の上昇とともに襟部が緩みやすくなるため遅れないように収穫する。 ・春腐れ、褐色腐敗症などによる品質劣化の恐れがあるため、銅剤による予防散布を徹底する。 ・さび病の予防防除を徹底する。 【夏ねぎ】 ・トンネル作型は、トンネル除去と同時に小菌核腐敗病、さび病の防除を徹底する。 ・3月定植作型は降雨等で定植が遅れないよう、早めにほ場準備する。 【秋冬ねぎ】 ・3月中旬以降は抽台が始まるため、雪害等で収穫が遅れているほ場は早めに収穫する。
	すいか	<ul style="list-style-type: none"> 【ハウス栽培】 ・早い地域で2月24日から定植が始まり、3月1日から本格定植が始まっている。 ・定植後の生育は順調。 【トンネル栽培】 ・2重トンネル作型が3月5日、1重トンネル作型が3月8日から定植が始まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気温の変動が大きいため、トンネル、ハウス内が高温になりすぎないように換気管理を適正に行う。 ・翌朝に冷え込みが予想される場合はトンネルを早めに閉めて夜温を確保する。
	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> 【秋冬どり】 ・秋冬ブロッコリーは収穫終盤で、進捗率は計画比90%程度。 【初夏どり】 ・3月1日から定植が始まり、順調に作業が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初夏どりは早期の虫害に注意し、防除を徹底する。
	らっきょう	<ul style="list-style-type: none"> 【福部地区】 ・12～1月の状況と比べると生育は回復してきているが、球重は平年の80%程度にとどまっている。 【北栄地区】 ・積雪で生育遅れが懸念されたが、2月以降天候が安定していたため生育は回復し、球重は平年比99%で平年並みの生育となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病、春腐症の防除を徹底する。 ・乾燥時はかん水を行い、肥大促進を図る。
	促成トマト	<ul style="list-style-type: none"> 【大原地区】 ・5段目が開花中で、例年より1週間程度早い生育。早いほ場では1段目が着色始めとなっている。 ・灰色かび病は例年より発生が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷は4月上旬からの見込み。 ・灰色かび病が蔓延しないよう、予防防除と耕種的防除(花がら及び枯葉の除去)を徹底する。
	にんじん(春どり)	<ul style="list-style-type: none"> ・春どり作型の播種が3月1日から始まっていおり、順調に作業中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発芽後、4月下旬頃まで不織布べたがけを継続する。不織布が風で剥がれないようしっかりと押さえておく。 ・春先の強風に注意し、飛砂防止の事前散水を徹底する。
花き	シンテツポウユリ	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 ・各生産者(智頭町及び八頭町)・JA(鳥取市用瀬町)で盆出荷用の育苗を行っている。今のところ順調に発芽し大きなトラブルはないが、オーガスタEXがやや小さく、品種により生育差がある。 ・智頭町で育苗中の露地抑制用晩生品種(試作系統、2月上旬播種)も発芽揃いとなっている。 【中部地区】 ・倉吉市の地床育苗の発芽は順調。生育も順調で、1月上旬播種のF1オーガスタEXは本葉が出ている。優雅中生、優雅晩生の発芽も順調で特に問題は見られない。 ・北栄町では花壇苗生産者が受託してチェーンポットで育苗中(3戸が委託)。生育は概ね順調。 ・北栄町のハウス抑制作型は令和2年産は2月上旬で出荷終了。令和3年産用の種子も令和2年産と同様に発芽率が悪いことが予想されるため、通常より2週間程度早い3月15日から播種を開始する見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> 【季咲作型共通】 ・今後は葉枯病やキノコバエの発生が懸念されるため、防除を徹底する。 ・4月下旬ごろより順次定植される予定。
	ストック	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 ・八頭町内で栽培中の春の彼岸出荷作型は、1月下旬ごろから開花が始まり、2月から少しずつ出荷している。3月にはやや咲き過ぎの状態のものを出荷しており、花卉の傷みも見られる。 ・鳥取市も開花が早く、1月下旬には開花が始まり、3月上旬には開花適期に達しているが、彼岸に出荷したいという意向から収穫を進めていない。ほぼ全量が廃棄になると思われる。 【中部地区】 ・北栄町では出荷終盤。スタンダード(SD)、スプレー(SP)ともに日量2,000本程度。週2回(木曜日、日曜日)出荷。平均単価はSD 75円、SP 95円でやや回復傾向。 	
イタリアンライグラス等	<ul style="list-style-type: none"> イタリアンライグラス 【東伯地区】 ・順調に生育。 【西部地区】 ・概ね順調に生育。 【大山地区】 ・順調に生育中。草丈20cm程度。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・3月11日広島地方気象台発表の中国地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は、平年より高い見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春先は身体が暑さに慣れていないため、農作業中の熱中症には注意する。 ・体調が悪い時には、農作業を行わないようにする。 ・気温・湿度が高い場所では、30分ごとに休憩をとりコップ1杯の水を補給する。また、農作業の前後にも水分の補給をする。 ・特に農業用ハウス内での作業には注意が必要。 ・気温・湿度が高い中でマスクを着用すると熱中症のリスクが高まるため、屋外での農作業などにおいて人と十分な距離(2m以上)が確保できる場合には、マスクを外して行う。 ・マスクを着用している場合には強い負荷の作業は避ける。 	